

農時電送

H30 水稻 No.②

1. 健苗育成のポイント

- 1) ハウスの温度管理…出芽中は要注意、“出かける時はハウスを開けてから”

出芽までは、初の位置で温度管理
<適温:32℃、限度35℃>43℃: 20~30分で生長点枯死。
49℃: 1分で枯死。出芽後は、葉上(5cm程)気温で管理緑化~1.5葉まで
日中: 25~20℃
夜間: 10℃以上1.5葉以降~移植7日前
日中: 20~18℃
夜間: 10℃以上

※成苗ポットでは出芽(種子根が置床に付く)までの十分な水分が必要です。特に低温で出芽が長引く場合などは、出芽体制に入る前(朝)に十分なかん水を行う。

- 2) 出芽後のかん水について(…従来 of 育苗法を想定)

・前半は根の充実を図るためかん水は控えめ、後半は生育量に応じ十分なかん水を。
・朝夕の苗の露つき状態や日中の葉の展開状況を確認しながら、適切なかん水。

- 3) 追肥について

マット苗: 1.5葉期、2.5葉期に窒素 1.0g/箱(例:NP57:7g/箱、散布後水洗い)
型枠、成苗ポット: 基本的には追肥不要。

但し、苗床の酸性化等で発根が悪くなっている場合がありますので、苗の異常褐変症状も含め状況把握と対応(追肥及び早めの移植)を急ぐ!…(GW明け頃~要注意!)

2. 本田準備の要点

昨年 of 秋~本年春(4月前半まで)は湿潤状態が続いていますので、引き続き本田 of 乾燥化を促し、これからの耕起作業に備えましょう。(農時電送水稻No.①4.04参照)

- 1) 耕起・施肥について

初期生育促進を重点に、

①耕起→②施肥→③丁寧な碎土⇒④入水後の代掻きは、ほどほどに。

施肥は基準施肥量を守るとともに、全層+側条施肥(全窒素量の3~5割)で初期生育促進を!
施肥後の入水は7日以内に行いましょう。遅くなると脱窒現象で肥効低下に繋がります。

- 2) 施肥量について…土壤診断に基づく適正施肥が重要。(北海道施肥ガイド2015、地帯区分5より)

☆窒素は、収量目標510kg/10aとして低地土:8~8.5kg/10a、泥炭土:6.5kg/10aを標準として、
培養窒素値により低+0.5~高-1.0kg/10a範囲で増減。稲藁鋤込みほ場は1~2kg/10aの減肥。☆リン酸は、8.0kg/10aを標準として、分析値により増減します。…基準値を超えるほ場が多く、
リン酸減肥が必要となっています。(6~4kg/10a程度に、リン酸減肥銘柄への切り替えを!)

☆カリは、8.0kg/10aを標準として、分析値により増減します。(低 14~高 5kg/10a)

- 3) 土壤改良資材 ~ 各種ケイ酸資材の施用。尚、pH6.0以上ではケイカル施用は避ける。
-
- また、泥炭土等のマンガン不足のほ場はFTE(ミネラス)施用。

春の繁忙期、声掛け合って農作業事故を防ごう!